



振り返りの第一段階として

学習者主体で進められる授業には、「振り返り」が重要です。振り返りを通して、学習者が自分の理解度を確認します。その上で、自分の考えを見直したり、新たな考えを取り入れたりして、試行錯誤しながら、少しずつ自身の学びを舵取りできるようになるからです。

振り返りは授業者にとっても重要です。形成的評価として活用することで、授業者は子どもたちの理解度や学び方を把握し、日々の授業を改善していくことができます。また、学習者に学び方のよさや改善策を伝えることで、学習者が学びやすい環境をつくることができます。このように、振り返りによって、学習者は日常の学習をよりよい学習にしていくことができ、授業者は学習環境を改善していくことが可能になります。

授業の終末に行う振り返りは、ノートに書かれたものやデバイスに打ち込まれたものを多く見ますが、音声や動画（自撮り）、口頭で説明するものもあり、表出方法は多様です。授業者が表出方法を一律に限定することは、子どもの学びの妨げになる可能性があります。また、学習者自身が根拠をもって、表出方法を選択できるようにすることが望ましいとも考えます。そのためには、それぞれの方法のよさを実感できる機会を多く提供することも必要です。授業のゴールを踏まえ、意図的・計画的に振り返りの方法について、学習者と授業者が共に考えていきたいです。とは言え、私自身も以前、振り返りの時間を確保ができずに、学習のまとめまでで終わることが多くありました。また、振り返りに慣れていない学習者は、どんなことを振り返ったらよいか分からず、なかなか手が動きませんでした。そこで、今年度は、第一段階として、ロイロノートの4色のカード（背景色）に意味をもたせ、授業の終末に自分に一番合うカードを選択することで、自分の理解度を振り返る取組をすることにしました。黄緑を除き、信号機🚦と同じように3色でもよいです。文字はなくてもいいです。

とても
よく分かりました

だいたい
分かりました

あまり
分かりませんでした

ぜんぜん
分かりませんでした

今回の便りを作成する際に使用したサイトは下記の通りです。

右の二次元コードからもアクセスできます。

植田一宏．「振り返り」を通して個別最適・協働的な学習環境を学習者と共創する”．学びの場.com. 2024.11.30,

<https://www.manabinoba.com/research/023489.html>（参照 2025.5.30）

